



RUNNER

Vol.26



◆目次◆

活動の現場……………2

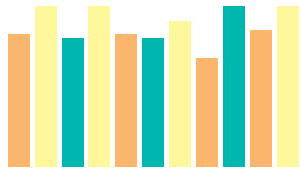
救護の会と会員さんが
表彰されました！……………5

帰ってきた“つぶら”と
小さな小さな“ピッコロ”のお話し…6

～On your side～
動物たちのために……………8

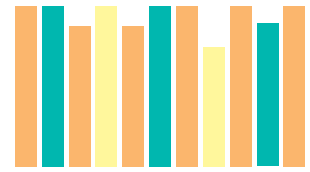
足環プロジェクト……………10

インフォメーション……………12



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



2016年度 野生動物救護の会総会 報告

今年度の総会が5月29日(日)、自然環境保全センターのレクチャールームにて午前11時から開催されました。議長に会員の三輪さんが選出され総会が進行されました。出席者と委任状の方を合わせて会員総数の75名より過半数となり総会は成立しました。議事に入り、2015年度の活動報告や決算報告、それに2016年度の活動予定などが提案され、満場一致で承認されました。また野生動物救護の会の役員は改選なしで昨年度に引き続き務めてもらうことになりました。議事終了後、2015年度に自然環境保全センターより野生動物救護の会に委託された業務の報告がありました。委託業務は「平成27年度水源地域猛禽類生息実態調査」と「猛禽類保護データ解析」の2点です。生息実態調査は渡辺理事長より、9月～3月までに25件の猛禽の生息実態調査を実施したこと、5件のリハビリ、それに広報活動として猛禽類の役割や生息実態情報展示と保護猛禽類の実物展示を各種イベントで実施したことが報告されました。次に猛禽類保護データ解析の報告がスタッフの神崎氏よりありました。保護記録の地理データベース化と分析についての詳しい内容、また猛禽類保全学習会の実施や普及啓発資料のリーフレットが作成されたとの報告がありました。

総会終了後、午後1時30分頃から七沢森林公園でバーベキューを行いました。初夏の暖かさ、豊かな自然と新緑、きれいな空気などに囲まれ楽しい雰囲気です。会員さんたちの親睦が深められました。この日の交流が野生動物救護の会の今後の活動に有意義に関わってくるものと願っています。たくさんのお話と食事を体に詰め込んで午後3時45分ごろ終了解散しました。予約や買い物、準備や片付けに係って下さった方々ありがとうございました。



平成28年度 野生動物救護ボランティア講習会 報告

6月4日、5日に今年度の野生動物救護ボランティア講習会が神奈川県自然環境保全センターにて開催されました。

4日(土)は、25名の方が受講されました。今回は、珍しく男性の参加者の割合が多く、年代も幅広いように感じました。午前中は、法律や、野生動物救護の現状やボランティア活動の実際、そして、野生動物救護の理念と目的について金沢動物園の森角氏にお話頂きました。受講生は朝早くからの集合でしたが、皆一生懸命、耳を傾けていました。お昼休み後、スズメを六羽放野。あっという間で、あっけなく飛んでいくスズメを、受講生達は見守っていました。

午後は、衛生管理や、先輩ボランティアのお話、応急処置や搬送などについて、実習などなど、実際にボランティアするにあたって、より具体的、実践的な講習を行いました。スタッフとして、一日お手伝いをしましたが、衛生管理のお話では、数年前まではなかったと思いますが、最近ニュースでも耳にする、ジカ熱やSFTSが事例に入っていたり、"鶉は、ラテン系で、餌をねだってくる、餌欲しさについてくる"との森角氏のお話に、センターの鶉と同じだ！鶉の性格なんだな！などの発見もあり、私自身も色々勉強させて頂きました。講習会后に、さっそく、RUNNERの作成に関わりたいと申し出てくださった方もいらっしゃり、嬉しく思いました。皆さんのこれからのフレッシュな力に期待したいです。

6月5日（日）は、30名が参加されました。朝から雨でしたが午前9時までに全員がそろい、受講への意気込みが感じられました。前日と同様に講義は行われ、昼休みにムクドリの放野がありその頃は雨が上がっていました。2日間ともスケジュール通りに講習会が終了しました。質問時間で多くの質問やアンケートの記載内容の積極的な言葉などから、受講生の今後の活動が期待されます。

これからの3日間の実習に積極的に参加されて、多くの方が野生動物救護ボランティアに登録されることを願っています。そして野生動物救護の会にも加入していただき、自然環境保全センターでの救護活動だけでなく、野生動物救護を基にした様々な自然保護活動に取り組んでいただきたいと思います。



部長のあいさつ



金沢動物園 森角氏



中山先生



遠藤さん



石黒さん



ムクドリ放野 5日

第6回夏休み体験教室 報告

7月30日（土）、神奈川県自然環境保全センターで「第6回野生動物を学ぶ 夏休み子ども体験教室」を開催し、小学校4年生から6年生までの男女計6名が参加してくれました。

当日は朝から夏らしい快晴で、日中はとても暑くなり、水分補給をしつつ体調に注意しながらの活動となりました。朝10時に集合し、自己紹介を終えると早速保全センターの中の野生動物が保護されている施設を見学、それぞれ救護の会のスタッフが動物たちが保護された状況などを説明しました。続いて3つの班に分かれ、動物の小屋の掃除と餌配りを行いました。その後、職員さんの指導のもと、ツバメとヒヨドリのヒナへの挿し餌を実際に体験しました。皆さん初めてのことながら一生懸命に作業してくれました。また、交通事故で下半身が不自由になったタヌキと羽が折れてしまい上手く飛ぶことができ

ないオオコノハズクに、実際に触れてもらいました。両者とも野生復帰はできない個体なので、その理由や体の特徴などを獣医さんに説明してもらい、子どもたちからは「可愛い!」「羽根がフワフワしてる!」など色々な感想が聞かれました。

お昼休みを挟んで、午後はヒナの時に保護され、保全センターで育て成長したムクドリを放鳥することからスタートしました。放鳥後は室内に移動し、無地のT-シャツにアクリル絵の具と動物の足跡スタンプや本物の野鳥の羽根、草葉を使って思い思いのデザインでオリジナルT-シャツを作成しました。

その後は授業形式で私たちの身近に住んでいる野生動物と、その動物たちがケガを負う原因などを子どもたちからの意見を募りながら考えました。次に獣医師の鵜飼さんから保全センターに保護される野生動物たちの救護の現状などを説明していただきました。そして、身近な野生動物の説明やケガを少なくするための対策などを解説しました。最後に、完成したT-シャツを着て記念撮影をして解散となりました。

参加してくれた子どもたちからは、「とても大変だったけど楽しかった」「何を食べるかなど色々わしくわかってとても勉強になりました」「動物の世話ができていい体験になりました。また参加したいです」「けがをする動物を少しでも減らしたい」などの感想が寄せられました。終始和気あいあいと楽しそうに参加してくれた子どもたちの姿に私たちスタッフもとてもやりがいを感じる事ができました。

みんなで掃除!



ヒナにさしえ体験!



餌の説明を受けました

ペイントTシャツ完成です!



勉強中です



放野体験

救護の会と会員さんが 表彰されました！



今年5月、第70回愛鳥週間にあたり野生動物救護の会が公益財団法人日本鳥類保護連盟様より感謝状をいただきました。日頃の野生動物の保護活動を評価していただいたことを感謝すると共に、この受賞に恥じないよう今後さらなる努力をしなければと改めて襟を正しました。

6月には、救護の会の会員である 遊佐弘司さん、平美也子さん、神崎さつき(筆者です)、他1名の4名が平成28年度神奈川県野生鳥獣功労者として表彰され、日々、野生動物を助ける活動や普及啓発に尽力されている皆さんの功績がたたえられました。おめでとうございます！

受賞された皆さんからコメントをいただきましたので紹介します。

遊佐弘司さん

「傷病鳥獣功労者表彰ありがとうございます。
平成19年にボランティア講習会を受講して10年のこの時期に野生鳥獣功労者受賞を推薦していただき驚きました。ボランティア活動に参加してこの10年何をしてきたのか、自分の出来ることをできるときにを基本的に少しお手伝いしてきましたが本当に手伝いになったのか邪魔はしていないか心配です。最近は傷病舎、ケージにも入らず、放野にも参加せず何してるのか？にぎやかで楽しいイベントにはよく参加しましたがこれも自分の好きなことに参加しただけです。後期高齢者になりましたがこれからも外仕事になると思いますが少しでもお力になれるよう体力の続く限り頑張ります。」
(*遊佐さんの受賞に関してはタウンニュース海老名版7月12日号で詳しく紹介されています。インターネットでも見られますので、ぜひご覧ください。)

平美也子さん

「今回皆様の代表として表彰状をいただきました。
野生動物救護のボランティア制度を知り、仕事を退職の後、動物たちに会いに時々七沢のセンターまで出かけています。次の世代の子供たちに、野や山や海、川に生きている鳥、獣と共に暮らせる楽しさを知ってもらいたいと日々考えています。」

神崎さつき

「私がこのような立派な賞をいただいてしまって、申し訳ないような心境です。これからも動物たちがより良く生きる為の手助けが少しでもできるように頑張りたいと思います。」

(*タウンニュース愛川・清川版7月8日号人物風土記のコーナーで紹介していただきました。)

帰ってきた“つぶら”と

小さな小さな“ピッコロ”のお話し

ボランティアさんから
寄せられた心に残る
お話しです。

澤田 伸子

庭に落ちていたツバメのつぶらは、両肩や足を打って弱っていました。ミルワームには反応せず、砂糖水のスポイトにだけ食いついてきましたが、翌日からは、すごい勢いでミルワームとオンブバッタの子を食べてくれました。仲間たちとセンターで過ごすのが幸せと思い、七沢の保全センター（*1）につれてゆきました。

救護の会の渡辺さんのお世話で、センターのボランティアと講習会の受講を経て、長期飼養ボランティア（*2）で、保全センターから依頼を受けて我が家に戻ることができました。そして早、6年が経ちました。

そんな事情もあり、外のつばめ達のことが気になる私です。JR横浜線中山駅前に、毎年来てくれるつばめ達が、今年はなんとバス待ちの人達の真上の柱に巣を作っていました。

これはまずい、と近くの交番に相談に行きました。ところが交番でも、どこに話をすればよいのかわからずたらいまわしになり、何週間もかかってようやく担当の方につながりました。

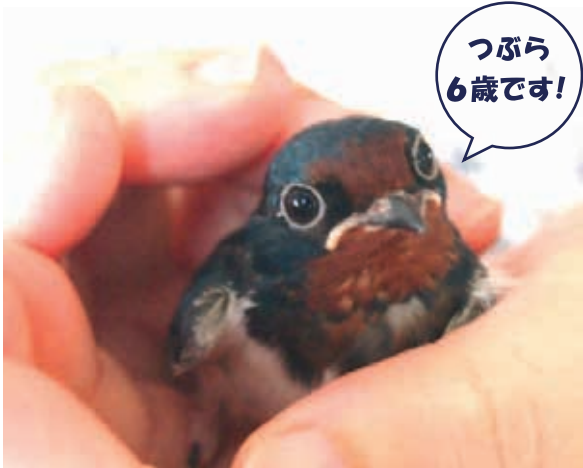
待った甲斐があり、こころ温まる写真つきの目立つポスター数枚を貼って貰えました。

巣を見守っていましたが、ひな達が既に巣立ち間近なのに、真下に小さな小さなひなが落ちていました。（8/5のことです）明らかに成長の差が大きく、巣はかなり高く、ひなを戻せませんので、買い物を中止して即、自宅に持ち帰りました。

よく見てみると、頭にはうぶ毛も残り筆毛だらけです。くちばしも柔らかくてびっくりしました。



ツバメ達のために駅ビルの方が作って下さったポスターです



外出の時は、ドッグフードを食べるから出
かけないでとばかりにアピールしたり、今は
オリンピック中継に夢中です。君は人間だと
思っているのでは？とよく思います。とにかく、
よく食べ、オリジナルソングを歌い、元気一
杯に生きています。ピッコロの分まで頑張っ
てねと願いつつ、日々共に暮らしています。

最後に忙しい中、必死に電話をかけて下さ
ったお巡りさん。かわいいポスターを作って
下さった駅ビルの方、ありがとうございます。
私の大好きなつばめ達をこれからも見守って
下さい。宜しくお願い致します。

ポスターは2種類も作って頂けて感激しました。

2016年8月29日

とにかく、つぶらを助けた時のように、ま
ずは砂糖水をスポイトで飲ませ、ドッグフー
ドやミルワームもあげてみました。飲みこん
ではくれますが弱々しくてぐったりしていて、
目もすぐにつぶってしまいます。さしえの回
数を多くして少しずつ与えてみました。

次の日の朝、つぶらの大きなさえずりに反
応して答えていたので元気が出たと思っただ
けですが、やはり口をあけてくれません。最後
になってしまったさしえの時、持ち上げると、
元気な声で“ピッ”と一声。いつもはつぶっ
た目を開け、その時だけは私の目をじっと見
ていました。そして2日目の朝には冷たくなっ
ていました。

人通りの多い駅前広場で、ゴミのように死
んでゆかなくて良かったと思いつつ、生まれ
てきたのに兄弟達と飛ぶことができなかった
野生の厳しさに、ただ涙が止まりませんでした。
今は我が家の庭に眠っています。今度生まれ
てきたら大空を飛べるといいね、と毎日話し
かけています。

つぶらとの毎日は本当に楽しくて愉快です。

- *1 神奈川県自然環境保全センター
- *2 長期飼養ボランティアとは骨折などによる飛行不能などの理由で野生復帰不能になった鳥獣を保全センターからの飼養依頼を受けて、自宅で生涯飼養する制度。保全センターへの定期報告などが必要です。



我が家に落ちた時に右足も強打したらしく、爪が
おかしな方向に伸び、後ろの指が時々前に行っ
てしまい止まり木がつかめなくなります。でもと
ても元気です。

ランナーでは皆様からの原稿を募集しています。野生動物に関することなら
どんなことでもOKです！原稿に関する事は事務局までご連絡下さい。
皆様からのステキな原稿お待ちしております。





～ On your side ～

動物たちのために



ボランティア歴11年目の伊熊さんがボランティア活動をしなが
ら日々思う事を文章にしてみました。

かけがえのない地球の一員である彼らのために、
想いを繋いで…。

伊熊が、最近本当に切実に思っている事です。
ボランティアとしてセンターに来る様にな
って13年目になったようだ。自分より先輩だ
と思っていた方々が私より後に入られたと知
って何度目を丸くした事だろう。そしてその
間に何人もの人達と関わって来たのだが…セ
ンターに来るといつも思う、よくもまあこれ
だけ色々な生態系を持った、いやいや色々な
特技を持ち得意分野で活躍している人がバラ
ンス良く集まったものだなあという事である。
本当に凄いと思う。例えば動物たちを収容す
るケージの設計や組み立て、センターの各箇
所の整理整頓して使いやすくしてくれる、調
査を中心に貴重なデータを収集している人や
野生復帰出来ない子を引き取り、生涯面倒を
みて下さる。また自分の農場から採れた野菜
を栃木から届けてくれたり、釣った魚を持っ
て来てくれる人達。実際にセンターにいる子
達のために特に掃除が上手な方もいれば虫や
害虫のザリガニを採っては多様な餌作りをし
てくれる。足を傷めた鳥たちが痛くない様に

タオルを厚く縫い合わせてクッションを作る、
またランナーの編集や講習会のイベントをい
つも手伝って盛り上げてくれる。小学生に野
生動物がどういう存在であるかを指導したり、
家にあった物や再利用出来そうな物を持って
来て予算削減に貢献したり、わざわざご飯代
を自腹で出してくれる方……数え上げたらき
りが無い。皆それぞれに動物たちや環境の事
を気遣い思いやって何かしたくて活動してい
るのである。方向性は違っていても想いは同
じなんだもの。今までどれだけの人達が動物
たちのために傷ついた彼らと向き合い、一生
懸命に治療やケアやりハビリテーションをし
て来ただろう。救護の会もボランティアのメ
ンバーも必ずしも近隣から来ている訳では無い。
なかなか来られないけれど、それでも月に
1回足を運んだりセンターを辞めても小鳥の
ケージに敷く新聞紙を折ったり、必ず定期的
な曜日に来ている皆さんたち。どうしてなん
だろう？それはやはり何と言っても純粋に動
物が大好きである事が根底にあり、多くは人
間が原因で傷ついた彼らに何かしてあげたい
という気持ちに突き動かされているからに他
ないのだな。地球上の同じ生き物として人に





という気持ちに突き動かされているからに他ないのだな。地球上の同じ生き物として人にばかりではなく動物たちにとっても良い環境や治療、ケアをしたいと思う気持ち=そんな志を持った人達が仲間になって行くのである。誰でも最初から打ち解けている訳ではないんです。しかし想う所が同じだからすぐに顔見知りになり、やあやあ♪と声を掛け合う様になり、特技を発揮し協力し合うまで時間はかからないの。ただ最近不安に思う。センターには様々な動物たちがいて沢山の素敵な人達と触れ合える。私も動物たちのために作業をしている時は本当に幸せ■皆もきっとそうだよ、でも…これをいつまで続けられるだろうかという事。今いるメンバーだっていつか活動を停止し、ここを去らなければならなくなる日が必ず来る。次を担ってくれる人達が何人いるだろう?なるべく沢山いて欲しいし今以上に質の高い事が出来る人材が現れてくれるかな■毎年春になると色々な可愛いヒナヒナ達が運ばれて、その時季を狙ってボランティア講習会を開き、作業に参加して貰うのだがその後も来続けてくれる人の数がなかなか増えない■細くていいから長く、そして一緒にやって行きたいと思っているのにな……野生動物は飼われている子たちとは違い、種類は多様で関わり方もそれぞれだ。その時間が楽しくなり自分はこれをやって行こうと指標が定まるまでにはある程度時間がかかる。生涯をセンターで過ごさなければならぬ子達にやる事は日々山ほどあるのだ。センター

が存在し彼らが運ばれて来る限り、それは続いて行く。そのためには次の世代を育て、人数を増やして行かなければならず、今それを本気で考えないといけない時に来ている様に思えてならないのである。私はこのセンターに来る人達が大好きだ♪本当に素敵な人達ばかりである。先述の通り、皆最初から溶け込んでいた訳ではなくちょっとずつでも足を運び挨拶を交わす様になるうちに“あ〜久しぶり”“何〜♪今日来たんだ〜”“この前はお疲れ様”という展開になって行くんです。そんな人が1人でも増えて欲しい。純粋に真剣に動物や環境の事を一緒に考えて、小さな事からでいい。想いを受け継ぐ仲間になって欲しい。動物たちが好きで環境を、地球を大切に想う新しい仲間を必要としています。その輪を広げて行く事が言葉を話せぬ大切な命を繋ぐ力となって行くと思うから。皆待っています。どうか仲間になって下さい。今回もやはり動物たちのために。～ On your side ～



足環Project!!

足環プロジェクトとは

足環を付けた放鳥個体が野外で発見もしくは再捕獲等されることでその個体の生存年数、移動範囲・距離などを知る為の活動です。

詳しくは「RUNNER」vol.16 を御覧下さい。

～足環を付けて放された鳥たち～

2015年12月～2016年2月

足環番号	種類	放鳥月	放鳥場所
G3	フクロウ	2015年12月	厚木市猿ヶ島
G4	スズガモ	2015年12月	相模原市相模川
G5	スズガモ	2015年12月	相模原市相模川
G8	オオコノハズク	2016年1月	厚木市
G6	カルガモ	2016年2月	海老名市相模三川公園
G7	カルガモ	2016年2月	海老名市相模三川公園



G3 フクロウ



G5 スズガモ

(写真提供:神奈川県自然環境保全センター)

2016年3月～5月

足環番号	種類	放鳥月	放鳥場所
H0	ノスリ	2016年3月	中井町
H1	トビ	2016年3月	平塚市久領堤
H2	トビ	2016年3月	平塚市久領堤
H3	コガモ	2016年3月	相模原市 相模川
H4	カワウ	2016年3月	平塚市久領堤
H5	ゴイサギ	2016年4月	小田原市中曽根
H6	ゴイサギ	2016年5月	平塚市撫子原4丁目
H7	アオバズク	2016年5月	平塚市土屋橋



H6 ゴイサギ



H4 カワウ



H7 アオバズク

(写真提供:神奈川県自然環境保全センター)

<目撃情報のお知らせです！>

ウミネコD3が8月21日の早朝、大磯町の照ヶ崎で目撃されました。

釣り糸が原因で保護され、2014年9月に放野された後、2年近く元気であるところを確認されました。

皆様も赤い足環をつけた鳥を見かけたらご連絡ください。
お待ちしております。

こんな足環をつけた野鳥を見かけたら下記まで連絡してください。



NPO 法人 野生動物救護の会

Tel : 0463-75-1830 e-mail : wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp

または

神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 Tel : 046-248-6682

鳥の詳しい情報はこちらに載せています。

(放野の光景を動画で見ることができます)

ブログ URL : <http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo>



インフォメーション

イベント

◆ワールドフェスタ・よこはま 2016

▽日時:10月8日(土)・9日(日) 10:00~17:00 ▽場所:横浜市 山下公園
☆秋の横浜を舞台に世界の衣・食・住・遊の要素を盛り込んだイベントが盛大に開催されます。

◆動物フェスティバル神奈川 2016 in あやせ

▽日時 10月23日(日) 10:00~15:00
▽場所:綾瀬市オーエンス文化会館 及び特設会場(第一駐車場)
☆動物愛護精神の高揚と適正飼育について関心と理解を深めることを目的としたイベントです。

◆秦野市市民の日

▽日時 11月3日(木・祝)
▽場所:秦野市文化会館周辺
☆「お宝いっぱい 夢いっぱい」、「がんばろう日本! 負けるな東北! 負けるな九州!」をテーマに市民手作りのお祭りが開催されます。

救護の会はそれぞれのイベントに出展し、普及啓発活動やグッズの販売を行います。
ボランティアスタッフも募集中! 事務局までメール又は電話でご連絡ください。

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は9月30日、10月28日、11月25日
▽場所 秦野市立図書館
☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査と一緒に
行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を!

“救護の会 ブログ” 始まっています!

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介!

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや
報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページ
「救護の会ブログ始めました!」のバナーをクリックしてご覧下さい♪
アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



* 詳細は当会ホームページをご覧ください *

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました
皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★一般会員:どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)

★学生会員:学生の方(年会費 1,000 円)

★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口 5,000 円 個人一口 3,000 円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2016年9月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>
編集者 表紙:加藤優美(平沼亜矢子) 活動の現場:平沼亜矢子 救護の会と会員さんが表彰されまし
た!:神崎さつき 帰ってきた”つぶら”と小さな小さな”ピッコロ”のお話し:澤田伸子(平沼亜矢子)
~on your side~動物たちのために:伊熊智子(平沼亜矢子)
足環 Project!!:渡辺優子 インフォメーション:神崎さつき